

# 稲門フィラテリー

第 69 号

2018 年 9 月 1 日発行

## フランス切手から考える 切手による比較文化笑論

小川 義博

本会報 51 号、57 号に切手からオーストリア、ドイツの 2 カ国を考える駄文を掲載させていただいた。振り返り、この 2 カ国と文化的に交わりの深いと考える国、フランスを切手から考えた。

### 対象としての切手の変化

発行数：対象としては前回と同様、第 2 次大戦終結 1944 年から営利目的の発行が目立たない 2000 年までの発行切手とした。ただし、公用切手、プリキャンセルは除いた。これら切手の発行数の経年変化を過去に検討した 2 ケ国と比較し図示した (図 1)。商業化、営利目的の発行が早くみられる我国以外の 3 ケ国は戦後 50 年、切手発行の変化はあまり見られないか、わずかに増加してる程度、強いて見ればドイツが他の 2 カ国より増加が大きいかと感じられる程度である。参考まで 2015 年の発行数はドイツが 2000 年の約 1.5

倍、フランスが 5 倍で、我国は 1990 年前半の 9 倍から 10 倍も発行されている。

切手印刷：この間のフランス切手の印刷方式を整理、図示した (図 2)。フランス切手は凹版印刷が主と考えていたが意外な結果であった。凹版切手は非常に少なくなりフランス切手は凹版切手と言えるのは 1990 年頃迄であり、以後はグラビア印刷が主体になってしまっている。そこでフランス切手の一番の特徴であった凹版印刷切手の推移を確認してみると 1980 年代からグラビア印刷が増え、90 年代後半からは半数以上がグラビア印刷になっている (図 2)。凹版切手のもう 1 つの国、オーストリアの切手印刷の推移が気になる。図 2 と同時期のオーストリア切手の印刷方式を整理し図示した (図 3)。凹版から凹版・グラビア印刷が主な印刷となっており、フランスのように単なるグラビア印刷にならず、凹

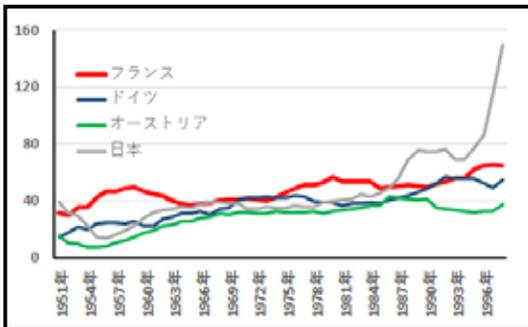


図 1. 切手発行種類数の経年推移 (5年間の移動平均で表示)

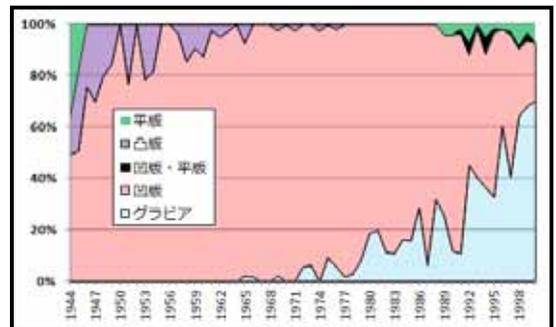


図 2. フランス切手の印刷方式の割合推移

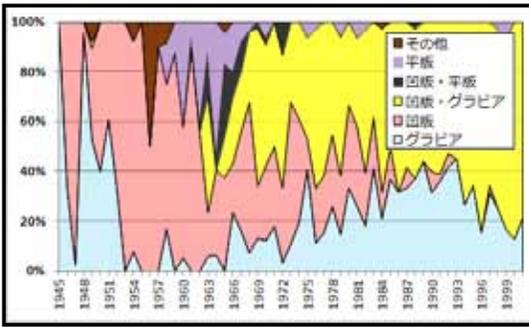
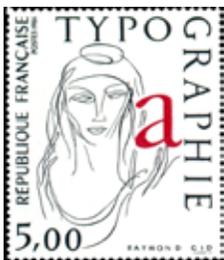


図3. オーストリア切手の印刷方式の割合推移  
 版を加えた味のある切手をこの時期までは残していたと考えたい。ただ、フランス切手に凹版・グラビア印刷の切手がほとんどないことはカタログによって異なる面がみられる。しかし、非常に少ないのは間違いないようである。



凹版 か 凹版+グラビアか 資料によって異なる切手の例

切手の種類：発行切手の種類を整理すると寄付金付切手の発行が注意される。戦後、多くの切手を寄付金付で発行していたが徐々に減り、現在は10%程度になり。寄付金付切手発行の多いドイツと異なる発行推移を見せている。(図4)

このような切手の発行変化をもって55年

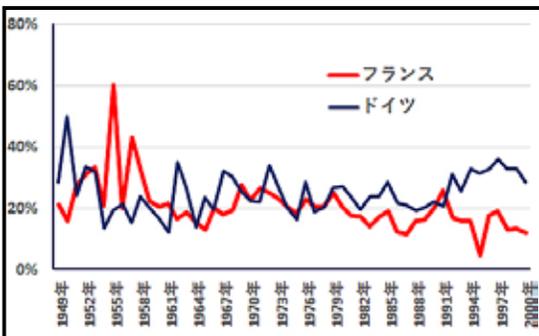


図4 寄付金付切手発行割合の推移

間に2707種の切手が発行されている。これら切手を全体として見ると以下の点が注意された。

- ◎2度の大战を振りかえる切手、戦火を記憶にとどめる切手が多い。
  - ◎人物を特定できる人物切手が多い。
  - ◎周年切手の発行が少ない。
  - ◎宗教関連切手が少ない。
  - ◎自然風景を描く切手に比べ、建築物を描く切手が非常に多い。
  - ◎美術、特に、絵画が多く切手に利用されている
  - ◎抵抗・開放・人権に関する切手が多い。
- これら事項を順に具体的に記したい。

◎2度の大战を振りかえる切手、戦火を記憶にとどめる切手が多い。

重なる戦火の地になった国であり被占領国、戦勝国を経験した国であり複雑な歴史が切手に反映されているようである。2707種

第2次大戦 勝利、  
解放 周年切手



10周年



20周年



30周年

表1 大戦関連周年  
記念切手

周年	第1次大戦	周年	第2次大戦
33	1	5	1
40	2	10	4
50	4	20	9
60	2	25	9
70	1	30	6
80	1	40	4
計	11	50	5
周年切手	70	1	
周年なし		39	
大戦関係計	60		



40周年



50周年



ナルヴィク海戦 サン・ナゼール強襲作戦の切手のうち戦、軍隊に関係する切手が少なくとも140種程度もある。その中で大戦がらみの切手が50種見られる。その中でも各大戦終結（勝利）の10年毎に切手が発行され、戦争の記憶を新たにする意思が感じられる。更に、特別な戦闘を取り上げている切手が複数みられる。1916年フランス領内で70万の死傷者を出したヴェルダンの戦いの30、40、50周年、マルヌの戦い50周年、第2次大戦でフランス領内のドイツ海軍の修理施設サン・ナゼール港にイギリス駆逐艦が突入自爆したサン・ナゼール強襲作戦5周年、ノルウェー・ナルヴィク海戦12周年、D-Day 50周年などの切手が発行されている。また、被占領国としての経験、記憶を新たにするためのレジスタンス追悼、収容所解放などの切手も多くみられる。それ以外に氏名を特定できる軍人の切手46種、軍関係学校、部隊、戦い、勲章、記念碑等10種類などが発行され、あまり多くの国の切手を知ってはいないが特別なものを感じさせる。

◎人物を特定できる人物切手が非常に多い

我国に比べ諸外国には人物切手が多い。オーストリア、ドイツでは約20%が人物切手であることは先の駄文で指摘した。フランスもやはり約20%が人物を特定できる切手であった。ここで注意されるのが寄付金付切手である。ドイツは寄附金切手を除いた特殊切手に限ると33%もが人物切手であったが、フランスの人物切手は人物切手615種の60%が寄付金付切手で、その90%が著名人シリー



世界偉人シリーズともいえる18種の内、3種  
レンブラント フランクリン ニュートン



寄付金付切手 著名人シリーズ  
画家 ドガ 作曲家 ビゼー



寄付金付切手 著名人シリーズ  
画家ルノアール 作曲家 サンサーンス ラベル

ズとして発行されており、ドイツとは逆の結果である。この著名人シリーズは1943年に初めて発行され60年ほぼ毎年発行されている。この間、1956、57、63年の3年に寄付金なしの特殊切手として18種の切手が発行されている。他はフランス人を対象としているのに、この18種の人物はルソー、ショパン、コペルニクス、ミケランジェロ、ニュートンと国外の錚錚たる人物、偉人シリーズといった感である。

次に、切手に描かれた人物の活動分野を整理し過去の駄文結果と比較した（図5）。ドイツに比べ政治家が少ないが、軍人、革命活動家、王侯貴族等とされた人物の中に政治活動の濃い人物が多いことに因ると考える。学術科学、文学分野はドイツ、オーストリアと変わらないが、芸術分野をみると音楽関係、演劇関係、

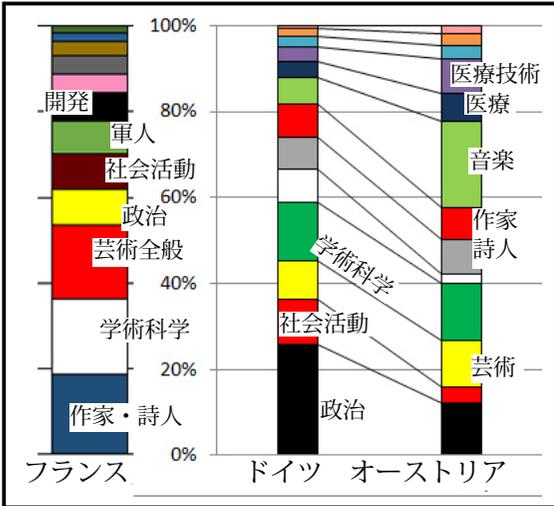


図5 切手になった人物の活動分野の比較

絵画彫刻とほぼ同数であり意外と画家の数が少ないが、他の国と同様、作品が切手になっていて、その画を描いた画家は人物切手に少ないためであろう。反して、作曲家が画家と同人数が切手になり歌手等も含めると芸術分野で最も切手になった人物が多い分野になり、フランスの芸術分野で音楽関連分野の占める位置が大きいことも考えられる。



27種発行レジスタンスの人物の内 3種

ジャーナリスト、パリ抵抗諷報機関の中心、地下放送に関与、拷問うけ6階から自害  
 第一次大戦ドイツ占領の市の市長、市民の強制労働協力を拒否、要塞に投獄される。  
 電話局員の知識から抵抗運動の通信組織を設立した女性。ゲシュタポに処刑される。



フィリップ・ルクレール  
 レジスタンスを呼びかけるドゴール將軍のラジオ放送で自由フランス軍の第2機甲師団を率いてノルマンディー上陸作戦に参加し、パリ入城を果たした。  
 ラトル・ド・タシニ  
 両大戦で活躍、ヴェルダン戦役で活躍、ヴァイシー政権に禁止されていたドイツとの戦いを行い懲役刑、脱出、1943年後半に解放兵を指揮しフランスを解放した。

次に、社会活動家の内容がドイツとかなり異なっている。ドイツでは社会福祉、教育分野の人物が目立ったが、フランスではレジスタンス活動家、フランス革命参加者等、抑圧、圧政、人権侵害に対し戦う人物が50種の切手に見られ、ドイツと明らかに異なる感を持つ。加えて、軍人で第2次大戦で戦ったラトル・ド・タシニ、レクレール、ドゴール將軍等が数多く切手(55種)にみられることは戦勝国という立場を考慮しても大戦以外にナチスの占領に対する特殊な意味深い政治的な内容があるのであろう。このように自由に抗するものへの戦いの記憶を大切にする社会を感じさせる。

◎周年記念切手の発行が少ない

特殊切手で最も一般的にみられる周年記念切手がドイツで特殊切手の47%、オーストリアでは特殊切手の約40%と半数近くであったが、フランスでは20%と半数にも満たない。これはフランスでシリーズ切手と思われる切手の発行が非常に多いこと(観光切手245種。美術切手165種、紋章・自然・地方等150種)、毎年発行切手の多さ(EU85種、グリーティング・手紙・郵趣会議73種)等から必然的に少なくなっており、わが国切手発行に似たものを感じさせる(図6)。

著名人 615種	赤十字 84種	切手の日 58種	EU切手 86種	郵趣会議 32種
観光 245種	美術 165種	紋章 60種		

図6 周年切手以外発行されている切手の種類と最初の切手

更に、周年の年数の割合を比較すると100周年までの短い周年記念での発行が多く、1000年以上の長期間で発行されているものがドイツに比較すると少ない(図7)。同じような歴史を持っていることから理解しにくい。そこで記念内容を整理してみると、ここでも戦争の影が歴然としている。戦勝周年、解放周年、軍人死去等、わが国、ドイツでは見られない内容がであった。

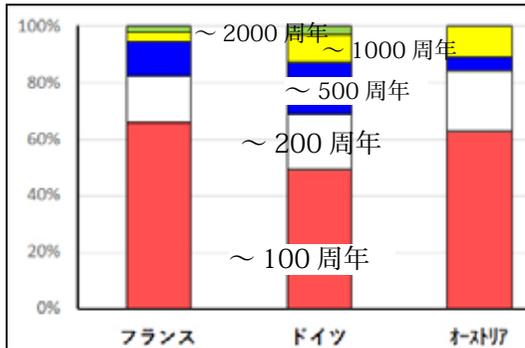


図7 周年別発行割合の比較



強制収容所解放周年記念切手2種と1次、2次大戦の英雄の軍人の死去の周年切手2種



また、1000年以上の周年切手が少ない。ドイツ、オーストリアに多くみられる、都市国家、城塞都市、宗教関係の1000年以上の周年切手が見られない。この意味するところはフランスの歴史に無知な者には判りかねる。

更に、周年切手の発行内容を整理すると、図7の様に2カ国とかなり異なった発行内容である。ドイツ、オーストリアに比べると、人物の生誕・死去周年切手が少なく、半分程度あるのに対して、戦、解放、人権、革命に関与す切手が周年切手

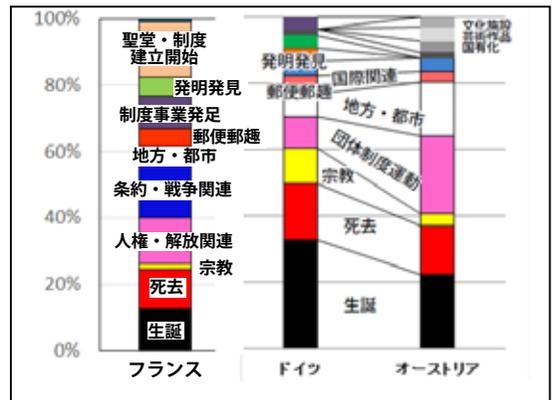


図8 周年切手の発行内容割合比較

の30%になっており、より一層2つの大戦の影と自由への強い思いを感じさせる。

また、種々の公共施設、機関、制度のスタートを記念する発行より、継続・経過の周年切手の発行、特に学校・教育関係施設の発行が目立つ。宗教施設の周年切手が少ない。他の種類の切手はかなりみられるのに周年記念としては極く有名な場所しか発行されていない。宗教と建築物については別の角度から検討する必要がある。



高等学校400年



モンサマツィエル1000年



ノートルダム800年

### ◎宗教関連の切手が少ない

図8で宗教関連周年切手が少ないことが明らかである。宗教を感じる切手は一見多いようのだが、人物切手上の人物はかなり古い時代か、本土以外で活動した宗教家であり、切手にみられる教会、聖堂等の建物は宗教上でなく、観光資源として切手になり、美術切手以外にキリスト像がみられ無いことなどが少ない理由かと考える。オーストリアの切手には司教管区、司教監督区、司教区に関係するもの、ドイツはキリスト教宗派の大会、会議に関係するものが多いことを思い、フランスに似た宗教的な切手を探す

と1種、Catholic Institutes と記され、国内の所在地が記された1977年発行の切手ぐらではないか。また、クリスマス切手の発行が1997年と他国に比し遅く、しかも、宗教色の非常に薄いものであることなどを考えると、これは「政教分離原則」(ライシテ)から国が宗教に関わることでの微妙な問題と関連しているのか考えてみる必要を感じる。



観光切手のリヨンサン・ジャン大聖堂  
1937年法王シルベストル2世  
1977年発行カンソリック教団記念?

◎建物を描く切手が非常に多い。

オーストリア、ドイツの切手に人工物を入れず自然だけの風景は非常に少なく、人工物である建築物を描く切手が非常に多いことを指摘した。この2カ国に比べ、フランスは自然風景を描く切手が多く、加えて、単一建物と同じぐらい建物の集合である市街、都市風景を描く切手が多く発行されていることがフランスの特徴であろう。

風景を描く切手が長期にわたり発行されているシリーズ切手 (Congress of the Federation of Philatelic Societies: 郵趣連合会議) の32種の中に都市の風景、景観を描く切手が多くみられる。



郵趣連合会議記念切手  
都市の景観を描くフランス切手特徴の一面を示す  
港からのマルセイユの景観切手と  
スペイン国境に近いペルピニャンの景観切手

更に、54年間で245種発行され Tourism・観光旅行のテーマで発行された切手の内容を整理した(表2)。こちらも、ドイツ、

表2 Tourism・観光旅行シリーズ切手の内容別発行数

内容		数	
風景	都市風景	57	86
	自然風景	29	
宗教建築	修道院	22	56
	教会	18	
	聖堂	16	
城・城壁		48	
橋		11	
その他		44	
合計		245	



ブルターニュ地方大西洋に面する河口のwalled-city 閉鎖都市コンカルノー遠景  
地中海に面するペジエ市のサン・ナゼール大聖堂  
フランス中央ニエール市のバツォン城



マルセイユの西北 Cévennes National Park タルン渓谷の風景の切手



ビスケー湾スペインバスク地方に隣接するピアリッツの岩礁風景の切手

オーストリアと異なる点は人工物のない自然風景も含め、山河海等の風景が切手に多く描かれている。そして、対象建物だけでなく周囲の建造物もふくめて一都市景観として描き、さらに都市全体を遠景として切手に描かれている。また、修道院、聖堂等の宗教関係の建物は都市の景観等の中で中心に扱われていることが多くかなりの割合を占めていることは前述した宗教関連切手の少ないことが影響しているかとも考える。

また、建物が他の国より種々の目的の切手に描かれている。パリの工芸品を紹介する5種の切手に工芸品とパリの有名な建物が配されている。工芸品と建物との関連は理解が難しいものが多い。

更に、人物切手に業績、作品等でなく、生家、活躍した都市等を人物の顔の両側に描いた切手などあまり他では見かけない切手が多いようだ。



香水 宝飾品細工 陶磁器ガラス 書籍 つづれ織り



オペラ座 マドレーヌ教会 ルーブル宮 学士院 コブラン工場  
パリの伝統工芸品のバックの建物



ダビンチ生誕 500 年切手

左の建物は不明。右はフィレンツェの風景、ダビンチが最初の絵画制作の依頼を受けた礼拝堂の祭壇画のあるヴェッキオ宮殿が中央か



著名人切手ベートーベン

左の建物は一見、生家と思われたが生家は 4 階の石造り。右は生地ライン河か。活動の地ウィーンのドナウ川風景か判断つかず、教えを乞う



絵画 78% 彫刻 7% ステンドグラス 5% つづれ織 2%



ギリシャ彫刻 聖遺物箱 細密画 古代洞窟画

図 9 美術切手シリーズの内容割合



ダビド 「テスコトのの誓い」の原画と切手  
「テスコトの誓い」で良いか疑問



ルイ・ル・ナン 「農民の家族」の原画と切手

◎絵画を中心に美術品が非常に多く切手に  
利用されている

芸術の国フランスらしく切手に多くの美術品を見ることができる。1961 年から現在も発行されている美術切手シリーズ、寄付金付赤十字切手が主なものであろう。他にもかなりあるようだが、美術に疎い者には難しい。おそらく全切手の 20% に美術品が描かれているのではないだろうか。

美術切手シリーズは 1961 年から 38 年の間毎年平均 4.3 種、計 165 種も発行されている。描かれている美術品は図 9 の様に絵画が圧倒的多いが、非常に幅広い領域の美術品が数は少ないが対象となっている。図 8 に示す以外にモザイク、古代絵画、考古出土品、七宝青銅器等が描かれている。これらの美術品、特に絵画の切手が原画をトリミングしたものが多く、有名絵画を除くと全く判断できない。よほどの美術愛好家でなければ無理である

う。わが国の屏風、絵巻を描く切手同様にトリミングの存在を意識し切手を眺めることに興味が湧く。

次に、1951 年以降 80 年代半ばまで年に 2 種類ずつ発行されてきた赤十字切手もやはり絵画が多く描かれているが、美術切手にはない文学作品の挿絵、人形などが描かれ広い分野から異なる視点で美術的な作品が切手に描かれている。(図 10)。



図10 赤十字切手シリーズの内容割合

他にも、わが国の浮世絵がそのまま切手になってるような有名画家の絵がみられる。その中で観光切手に有名画家の風景画をそのまま用いたものがあり、わが国であれば、富士国立公園切手に横山大観の作品が用いられるようなことであろう。



左  
ルーベンス生誕400年記念切手「自画像」  
右  
国際切手展記念デュッラー「自画像」



セザンヌ「サントピクトワール山」セザンヌが生産を通じて描き続けたことで知られる山  
ドラクローア「エトルタ海岸」ノルマンディ地方の石灰岩質の断崖が続く海岸

このような美術関係切手の内容に加えて、修道院、聖堂、教会と内部装飾品を描く切手の多さ等を考えると、直接的には表現してないがフランス切手が持つ潜在的な宗教を感じ取ることが必要であろう。

◎抵抗・開放・人権に関する切手が多い。

国旗が意味する自由・平等・博愛を感じさせる切手を無視してはフランス切手を語れない。フランス革命200年記念切手から始まり国連人権宣言周年切手、そしてアムネステイインターナショナル30周年等、20種にもなる人権擁護関係の等の切手と1枚の切手か

らフランスの国旗を思い出す。1枚の切手は1986年発行国際平和年・人権擁護の切手である。Victor Basch というレジスタンスのリーダーが描かれ、他の国々のハト、児童を描く平和年、人権擁護の切手と全くイメージが異なる切手である。人権、平和のために多くの苦難と犠牲を強いられた国ならではの切手だと考える。人権、平和を維持するための戦いを想起させる多くのレジスタンス活動家切手の存在と関連する戦争を記憶するための多くの切手から、フランスの平和、人権への強い思いを感じる。



1986年発行国際平和年・人権擁護の切手国際平和年マークよりレジスタンスのリーダーを大きく描く



アムネステイインターナショナル30周年切手

◎終わりに

フランスの歴史、文化を知らないでこのようなテーマを選び、恥ずかしくもなく紙面を汚してしまったと反省している。戦後2000年までのフランス切手に改めて切手の魅力を感じる。最近の年200種を超える切手には残念ながら感じない。機会があれば美術を中心にフランス文化を学習し、そのうえで新たな国、特に戦勝国の切手を加え、切手を集合体として検討してみたい。

★今回、本拙文に掲載した切手画像はすべて下記オンラインカタログから得た画像を使用しました。所有しているフランス切手は全くありません。言わば、邪道バーチャル切手収集の一利用例です。

<https://colnect.com/ja/stamps/countries>

関連拙文

オーストリア切手から考える 切手による比較文化笑論  
<http://www12.plala.or.jp/kaway/postagestamp/012stamps.pdf>

切手からドイツを考える

<http://www12.plala.or.jp/kaway/postagestamp/017stamps.pdf>

上の枠をクリックで表示サイト、PDFにリンクします。